

2025 年度事業報告

2025 年度に実施した事業は次のとおりである。

I. 事業報告

1. 出版事業

1.1 「環境情報科学」の発行

- ・機関誌「環境情報科学」を計 4 回発行し、会員に配布した。
各号については編集委員会において特集テーマを定め、当該分野の研究者等の寄稿による最新の知見等の特集記事として掲載した。また、「環境政策の最前線」と題した連載記事を毎号掲載した。
各号の特集テーマや発行時期については以下の通りである。
 - ① 54 巻 1 号 特集：持続可能な都市・社会に向けたモビリティシフト
＜環境政策の最前線＞自然共生サイト・地域生物多様性増進法
その他：第 21 回環境情報科学ポスターセッション開催報告・発表要旨集ほか
(2025 年 4 月発行, 162pp.)
 - ② 54 巻 2 号 特集：気候変動適応策
＜環境政策の最前線＞自動車向け再生プラスチック市場構築に向けた課題と今後のアクション
その他：2024 年度 一般公開シンポジウム 開催報告 ほか
(2025 年 7 月発行, 130pp.)
 - ③ 54 巻 3 号 特集：極地環境と極地環境からみる地球環境
＜環境政策の最前線＞都市における地域脱炭素の実践と課題
その他：報告 第 25 回環境情報科学センター賞 ほか
(2025 年 10 月発行, 90pp.)
 - ④ 54 巻 4 号 特集：カーボンニュートラル・ネイチャーポジティブ時代の環境アセスメント
＜環境政策の最前線＞科学と環境政策 — 政府間パネルと環境政策
(2025 年 12 月発行, 90pp.)
- ・査読付き審査を経て採択となった会員からの投稿による研究論文等 4 編を掲載した。
- ・科学技術振興機構 J-stage に電子版として公開した。

1.2 「環境情報科学学術研究論文集」の発行

- ・査読付き審査を経て採択となった環境情報科学に関する研究論文 45 編・報告 12 編を掲載した「環境情報科学学術研究論文集 39」(電子版)を発行し、科学技術振興機構の J-Stage 上に掲載論文の全文を公開した(2025 年 12 月発行, 359pp.)。

1.3 英文誌「Journal of Environmental Information Science」の審査・発行

- ・査読付き審査を経て採択となった原著論文 5 編を掲載した電子ジャーナル「Journal of Environmental Information Science, Vol. 2024, No. 2」を発行し、科学技術振興機構の J-Stage 上に掲載論文の全文を公開した(2025 年 5 月発行, 54pp.)。
- ・査読付き審査を経て採択となった原著論文 10 編・報告 1 編を掲載した電子ジャーナル「Journal of Environmental Information Science, Vol. 2025 No. 1」を発行し、科学技術振興機構の J-Stage 上

に掲載論文の全文を公開した（2025年12月発行、129pp.）。

2. 表彰事業

2.1 環境情報科学センター賞の表彰・報告

- 第25回環境情報科学センター賞は、センター賞選考委員会における慎重な審査・選考を経た後、理事会において最終審議を行い、下記の受賞者を決定した。表彰式および受賞者講演は2025年6月に開催した定時総会後に執り行った。

学術論文奨励賞：「発電立地周辺の地元社会に着目した、洋上風力に関する社会科学研究」
（山口 健介 氏：東京大学公共政策大学院／日本国際問題研究所）

- 第26回環境情報科学センター賞の推薦募集を行い、推薦案件について審査・選考を行った。

2.2 環境情報科学ポスターセッションにおける優秀ポスターの表彰

2025年度環境情報科学 研究発表大会において開催された第22回環境情報科学ポスターセッションにおいて、計88題（うち当日発表キャンセル1題）の研究発表が行われた。学術委員会を中心とする審査委員は発表内容並びに質疑応答への対応等を総合的に評価し、計13件の発表を優秀賞として選考し表彰した。

なお、2025年度から高校生の部を創設し、理事長賞1件を表彰した。

【大学生・大学院生の部】

賞名	ポスター題名	発表者名（所属）
理事長賞	主対象の「地と図」と建築物の「見えの大きさ」を考慮した夜間景観の空間構造分析	佐藤結佳子（東京農業大学大学院地域環境科学研究科）
	環境技術への熱狂はなぜ信頼できないのか？ハイプサイクルを生む社会的ダイナミクスの解明	秋山 知也（東京大学大学院工学系研究科）
	高尾山におけるムササビの生息地選択：分布調査とレーザーセンシングによる森林構造の定量的分析	松本敬（慶應義塾大学環境情報学部）
学術委員長賞	「気候変動は誰の責任か？」によって異なる市民の行動促進・抑制要因	糸井 風音（筑波大学 システム情報工学研究群）
	自然環境に関する報告行動の要因把握と効果的なナッジ介入の検証	三鬼裕泰郎（京都産業大学大学院 生命科学研究所）
	都市再生特別地区における超高層建築のWLC構成要因の分析	兵頭優奈（筑波大学）
事務局長賞	陸域の生態系保全を考慮した陸上風力・営農型太陽光発電の導入ポテンシャルの評価	東出天舞音（大阪大学）
	排水の遺伝子毒性の起源に関する研究	謝治鵬（長崎大学）
	ESG投資が企業のESGスコアに与える影響	植田 愛久（横浜国立大学）

【高校生の部】

理事長賞	Development of Underwater Drones for Routine Eelgrass Meadow Mapping	Rei Shiozawa (Shizuoka Seiko Academy)
------	--	--

【一般の部】

理事長賞	地域版統合評価モデルを用いた生物多様性・生態系サービスの将来シナリオ分析	芳賀智宏（大阪大学）
学術委員長賞	再エネ立地適地における地域との共生に関する現状と課題：青森県共生条例の事例	重 浩一郎（八戸工業高等専門学校）
事務局長賞	商業施設イベントスペースにおける大学発の環境活動の発信と交流の場づくり—「里山海づなめるフェス」を事例として—	田中 拓弥（京都大学フィールド科学教育研究センター）

3. 学術交流事業

注）講演者等の肩書は開催当時のものを記す

3.1 環境情報科学研究発表大会の開催

本大会では環境情報科学に関する研究論文発表、環境情報科学ポスターセッションでのポスター発表、一般公開シンポジウム、会員から募集した企画セッション・企画シンポジウムが行われた。なお、一般公開シンポジウム、企画セッションについては参加費無料で一般にも公開した。

日程：2025年12月12日（金）

会場：日本大学会館（東京都千代田区九段南4-8-24）

参加者数：約300名

内容：・環境情報科学に関する研究論文発表（57題）

・環境情報科学に関するポスターセッション（88題）

・公募による企画セッション・企画シンポジウム「EU環境法とその日本への影響」＜オンライン開催＞

・一般公開シンポジウム「気候変動への適応—気候変動対策と持続可能な社会への取組—」

共催：環境省

後援：環境科学会、環境経済・政策学会、環境アセスメント学会、環境福祉学会

出演者：基調講演（オンデマンド動画配信）三村信男氏（茨城大学 地球・地域環境共創機構 特命教授）

特別講演（オンデマンド動画配信）関谷毅史氏（環境省地球環境局長）

モデレーター 平野勇二郎氏（国立環境研究所社会システム領域システムイノベーション研究室 上級主幹研究員、CEIS 審議員、企画委員会委員）

パネリスト 仲江川敏之氏（気象研究所気候・環境研究部部長）

山野博哉氏（国立環境研究所生物多様性領域上級主席研員、東京大学大学院理学系研究科教授）

村山颯人氏（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

岡和孝氏（国立環境研究所気候変動適応センター気候変動影響観測研究室長）

ディスカッサント

羽井佐幸宏氏（環境省地球環境局総務課気候変動科学・適応室長）

3.2 環境サロンの開催

最新の環境事情等に関するテーマを選択し、以下の環境サロンを開催した。

1) 第161回環境サロン「ジビエを通して考える地域の環境と農業」

日時：2025年10月9日（木）19:30～21:30

場所：cafe. millennium（東京都世田谷区）

内容：① 猟師とmillenniumによるジビエに関する講座

② ジビエ肉の食べ比べ（キョン・鹿・猪）

③ ディスカッション

企画運営協力：猟師工房ドライブイン・cafe. millennium・日本大学生物資源科学部小谷ゼミ

参加人数：18名

2) 第162回環境サロン「江戸前ちば海苔を通して考える東京湾の環境と伝統産業」

日時：2025年10月30日（木）19:30～21:30

場所：cafe. millennium（東京都世田谷区）

内容：・ちば海苔漁師さんによる東京湾に関する講座

・ディスカッション

・試食（クロダイ Fish&Chips+東京湾熟成ワイン）

企画運営協力：cafe. millennium・日本大学生物資源科学部小谷ゼミ

参加人数：11名

3) 第163回環境サロン「実務と研究の二刀流（3）—働きながら学位を取得する—」

日時：2024年12月9日（火）19:00～20:30

開催方式：オンライン

講師：岡野隆宏（環境省 釧路自然環境事務所 所長）／橋俊光（株式会社空間創研 執行役員）／

鎌田安里紗（一般社団法人unisteps 共同代表理事）

コメンテーター 塚田伸也（行事委員・兵庫県立大学）

参加人数（申込ベース）：62名

4) 第164回環境サロン「猟師と考える鳥獣害の今と、ジビエがつなぐ地域の未来～深刻化する鳥獣害と向き合うために～」

日時：2026年1月17日（土）18:00～20:00

場所：木更津市金田地域交流センター

内容：① ゼミ活動の説明・猟師工房ドライブインの紹介

- ② 猟師による鳥獣害への想い
- ③ 牡丹鍋を食べながらディスカッション!

企画運営協力：日本大学生物資源科学部小谷ゼミ・猟師工房ドライブイン
参加人数：12名

3.3 論文執筆支援セミナーの開催

- ①日時：・セミナー動画配信 2025年4月7日～（配信期間約1週間）
・オンライン相談会 2025年4月14日・16日
- ②日時：・セミナー動画配信 2025年9月25日～（配信期間約2週間）
・オンライン相談会 2025年10月9日・14日

講師：赤淵芳宏 学術委員：明治学院大学法学部
有賀健高 学術委員：埼玉大学経済学部
片野洋平 学術委員：明治大学農学部
小林 剛 学術委員長：横浜国立大学大学院環境情報研究院
笹田勝寛 学術委員：日本大学生物資源科学部
竹内彩乃 学術委員：東邦大学理学部
土屋依子 学術委員：日白大学社会学部
錦澤滋雄 論文審査委員会副委員長：東京科学大学環境・社会理工学院
村上暁信 前論文審査委員会副委員長：筑波大学システム情報系
参加人数（申込ベース）：① 87名・② 47名

3.4 社会人向け交流・研究会の開催

「2025年度前期 社会人向け交流・研究会「ネイチャーポジティブに向けての対応の推進」

- 日時：（第1回）2025年5月29日（木）17:30～19:25
- （第2回）2025年6月17日（火）17:30～19:00
- （第3回）2025年7月29日（火）17:30～19:00
- （第4回）2025年9月17日（火）17:30～19:00

開催場所：オンラインおよび環境情報科学センター会議室

講師：（第1回）大澤隆文（環境省自然環境局生物多様性主流化室総括補佐）
（第2回）山野博哉（東京大学理学系研究科教授兼国立環境研究所上級主席研究員）
（第3回）宮本育昌（株式会社 JINENN 代表取締役社長）
（第4回）金子野吾（デロイト トーマツリスクアドバイザー合同会社マネージャー）
リーダー 西田貴明（京都産業大学教授）
サブリーダー 一ノ瀬友博（慶應義塾大学教授）

参加者：20名

3.5 若手研究者交流会の開催

今後の環境情報科学分野の発展を担う若手研究者のネットワーク化に貢献することを目的に、三島市等の協力を得て「若手研究者交流会2025」を開催した。

日程：2025年5月31日（土）～6月1日（日）（1泊2日）

場所：三島市内（講義等：三島市民文化会館1001ホール、フィールドワーク：三島市内の湧水やせせらぎ等の視察）

参加者：大学院生（博士課程・修士課程）15名（原則会員）

講師：村上暁信（筑波大学システム情報系 教授）／竹内彩乃（東邦大学 理学部 生命圏環境科学科 准教授）／堀啓子（滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 講師）／榎原厚一（信州大学 理学部理学科 物質循環学コース 助教）／一ノ瀬友博（慶應義塾大学環境情報学部 教授）／三島市 企画戦略部政策企画課

3.6 「集まれ環境が学べる大学の研究室」の開催

環境分野に興味を持ちこれから大学へ進学する高校生向けの企画として、関東地方の環境が学べる大学の研究室が集まり、研究内容を紹介するイベント「集まれ環境が学べる大学の研究室」を開催した。

開催日：2025年12月13日（土）13時～17時

会場：日本大学会館（東京都千代田区九段南4-8-24）

参加者：高校生等約50名

出展した研究室：

- ・岩手県立大学 総合政策学部 地域社会・環境コース
- ・茨城大学 農学部 地域総合農学科
- ・宇都宮大学 農学部・国際学部
- ・慶應義塾大学 環境情報学部
- ・大正大学 地域創生学部 公共政策学科
- ・中央大学 理工学部 都市環境学科
- ・筑波大学 理工学群社会工学類
- ・東京科学大学 環境・社会理工学院
- ・東京都市大学 環境学部 環境創生学科・環境経営システム学科
- ・東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科・森林総合科学科
- ・東邦大学 理学部 生命圏環境科学科
- ・長野大学 共創情報科学部
- ・日本工業大学 建築学部 建築学科・環境生命化学科
- ・日本大学 生物資源科学部 国際共生学科・環境学科
- ・武蔵野大学 工学部 サステナビリティ学科
- ・横浜国立大学 都市科学部 環境リスク共生学科
- ・立正大学 地球環境科学部 環境システム学科
- ・早稲田大学 理工学術院創造理工学部 社会文化領域

4. 第2次中期計画2025及び2030長期ビジョンとアクションプランの作成・実施

第2次中期計画2025及び2030長期ビジョン（2023年3月策定）に基づき、2025年度の中期計画目標年度に向けて作成した中期計画の「アクションプラン」に於いて優先度が高いとされた19プロジェクトを中心として、以下を実施した。

- ・一般公開シンポジウム、環境サロン、論文執筆セミナー、若手研究者交流会の開催、高校生向け大学の研究室の紹介イベントの開催、充実（3.参照）。
- ・社会人向け交流・研究会（試行）、及び研究発表大会での高校生を対象とした発表セッションの新規開催（3.参照）
- ・学生・若手等が参加しやすい会員制度のための「入会金及び会費に係る規程」の改訂（2026年4月1日施行）
- ・ML及びSNS等の活用方策の検討等

さらに、中期計画2025の評価と見直しについての検討を開始した。

5. 調査研究事業

2025年度は主に下記の調査研究等を受託し、実施した。

発注先	件名
環境省	令和7年度環境保健サーベイランス調査に係る集計（3歳児）、並びに解析及び環境評価（3歳児及び6歳児）に関する委託業務
環境省	令和7年度エコチル調査に関する企画評価等実施業務
環境省	令和7年度化学物質情報検索支援のための情報収集・整理及び課題検討等業務
環境省	令和7年度エコチル調査に係る広報等実施業務
環境省	令和7年度化学物質に関するリスクコミュニケーションやリテラシー向上に向けた調査検討業務
環境省	令和7年度化学物質ファクトシートの更新及び作成にかかる調査検討業務
環境省	令和7年度石綿健康被害救済制度に関する海外動向等調査業務
環境省	令和7年度化学物質アドバイザー派遣事業運営業務
経済産業省	令和7年度産業保安等調査研究事業（化学物質規制対策（化管法届出外排出量推計に関する調査））
防衛省	令和7年度P R T R対象化学物質に係る届出内容の電子化及び確認

	等業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	令和6年度エコチル調査における成果発表に係る調査・検討業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	令和7年度エコチル調査における成果発表に係る調査・検討業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	令和7年度地域における未来資源循環施設計画の策定支援ツールの開発業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	令和7年度子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）における委員会等運営補助業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	エコチル調査リスク管理・危機管理マニュアル改訂業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	令和7年度火力発電所燃料消費量推計業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	エコチル調査固定データ利用者向け e-learning コンテンツの作成業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	中心仮説解析計画検討ワークショップ運営補助業務（令和7年度）
国立研究開発法人 国立環境研究所	エコチル調査の成果発表論文へのキーワード付与業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	エコチル調査 Web 質問票設問項目リスト作成等業務
国立研究開発法人 国立環境研究所	エコチル調査における成果発表に係る質問票とりまとめ業務
国立成育医療研究センター	令和7年度エコチル調査に関するアウトカム測定方法等の検討支援業務
独立行政法人 環境再生保全機構	令和7年度地方公共団体が実施するソフト3事業のアンケート集計及び分析等業務
独立行政法人 環境再生保全機構	「熱中症被害状況等」検証データ整備業務
東京都	熱中症対策における科学的知見の提供等に関する連携協力事業
東京都	東京都暑さ対策グッズコンテスト審査準備業務
川崎市	環境技術・国際連携プロジェクト支援業務
川崎市	令和7年度公害防止調査研究業務委託
民間企業	グリーン調達及び環境マネジメントシステム運用支援業務
民間企業	化学物質関連法令等コンテンツ作成作業ほか
民間企業	環境学習 Web コンテンツ作成業務
民間企業	世界陸上 2025 暑さ対策支援業務
民間企業	環境問題と環境用語に関する Web サイトの原稿作成業務
民間企業	日除け2種による暑熱環境比較検証業務
民間企業	遊泳教育時の熱中症対策検討・提案業務
民間企業	令和7年度地域熱中症リスク管理支援業務

6. その他

6.1 広報体制の強化

- ・当センターの活動内容に関する広報強化のための検討を行った。具体的には、会員からの情報の発信依頼に対するメール配信対応、及び事務局による SNS の活用について検討し、2026 年度から実施することとした（4. 参照）。

6.2 他団体主催事業への後援等

以下の行事について後援・協賛した。

- ・第31回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会
開催日：2025年6月25～26日
場 所：ベネックス長崎ブリックホール
- ・日本リスク学会第38回年次大会
開催日：2025年11月7～9日
場 所：大阪大学吹田キャンパス
- ・令和7年度 第29回多摩市身のまわりの環境地図作品展
場 所：オンライン開催
多摩大学附属聖ヶ丘中学校 2年 新免小遥さんの作品『多摩市を守れ！多摩市の外来種 MAP』
に当センター理事長賞を授与した。

II. 会員の増減

2025年度末における会員状況は次の通りである。

会員種別	前年度末 (口数)	入会者数	退会者数	会員区分変 更者数増減	2025年度末 会員数	年間増減数
正会員	664	66	65	2	667	3
シニア会員	22	—	2	0	20	▲2
名誉会員	7	—	—	0	7	0
準会員	98	82	53	-2	125	27
賛助会員	17	1	0	—	18	1
	(17)	(1)	(0)	—	(18)	(1)
購読会員	51	0	2	—	49	▲2
	(52)	(0)	(2)	—	(50)	(▲2)
総計	857	149	122	0	886	27

III. 総会・理事会・各委員会の開催

2025年度における総会・理事会・各委員会等の開催は次のとおりである。

1. 定時総会の開催

【定時総会】

開催日：2025年6月26日（木）

会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

議 題：第1号議案 2024年度事業報告

第2号議案 2024年度決算報告

第3号議案 2025年度事業計画（案）

第4号議案 2025年度予算計画（案）

第5号議案 役員の改選について

第6号議案 「入会金及び会費に係る規程」の改正について

出席会員（委任状を含む）：408人

2. 理事会の開催

①開催日：2025年5月30日（月）

会 場：オンラインおよび環境情報科学センター 会議室

出席理事 17名・出席監事 2名

②開催日：2025年6月26日（木）

会 場：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンターおよびオンライン

出席理事 10名・出席監事 2名

③開催日：2025年10月3日（金）

会 場：オンラインおよび環境情報科学センター 会議室

出席理事 12名・出席監事 2名

④開催日：2025年12月15日（月）

会 場：オンラインおよび環境情報科学センター 会議室

出席理事 14名・出席監事 2名

⑤開催日：2026年3月27日（金）

会 場：オンラインおよび環境情報科学センター 会議室

出席理事 12名・出席監事 2名

3. 審議員会議の開催

開催日：2025年5月30日（金）

会 場：オンラインおよび環境情報科学センター 会議室
出席審議員：8名

4. 委員会の開催

- (1) 総務委員会 (2025年5月26日・10月1日・12月11日・2026年3月25日)
- (2) 企画委員会 (2025年6月9日・9月24日・2026年3月24日)
- (3) 編集委員会 (2025年6月2日・10月17日・2026年1月8日・3月23日)
- (4) 英文誌刊行等委員会 (2025年4月15日・7月11日・10月22日・12月22日)
- (5) 学術委員会 (2025年8月19日・10月29日・12月1日・2026年3月17日)
- (6) 論文審査委員会 (2025年6月30日・8月18日・10月24日)
- (7) 環境情報科学センター賞選考委員会 (2026年1月22日・3月2日)
- (8) 行事委員会 (2025年7月28日・9月24日・11月17日)

(ほかメール委員会等の開催あり)